

ニコニコ箱

ありがとうございました

- 山東 勝彦さん 50周年記念式典リハーサルにご協力ありがとうございます。
- 岡本 哲爾さん
- 松田 洪毅さん 予行演習です。皆さん頑張って下さい。
- 谷口 文利さん 式典の役員の方大変ご苦労様です。
- 加藤 裕司さん 50周年記念祝賀会まであと2日。皆様“力”を合わせて盛り上げましょう!!
- 土方 浩市さん 妻にきれいなお花ありがとうございます。
- 森川 宏昭さん 妻の誕生日に“花”ありがとうございました。
- 阪神タイガース応援団一同

50周年を成功させよう。

- 八幡 建二さん 50周年まであと2日、よろしく。
- 前田 成蔵さん 50周年の準備よろしくご協力を。
- 樫畑 友洋さん 不覚にも風邪をひいてしまいました。(インフルエンザではないのでご安心を) 皆さん時節柄お気を付け下さい。

【お誕生日お祝い】

- 島 公造さん 厚生年金もらえる年になりました。
- 岩橋 五郎さん お誕生日のお祝いを頂いて。
- 岸裏 廣澄さん //



おめでとうございます!

【本日の累計 75,785円(計13名 14件)(お誕生日お祝い 561,000円 皆出席 135,000円 その他 2,040,316円) 累計額 2,736,316円】

本日の例会 2月21日(土) 15:00~ 於和歌山東急イン

●創立50周年記念式典

前回の例会 2月19日(木) 12:30~ 於和歌山東急イン

●クラブフォーラム「50周年記念式典について」

- ロータリーソング 島 公造 ソング委員長 「それでこそロータリー」
- ビジター紹介 野上 泰造 親睦委員長
和歌山R.C. 5名 和歌山南R.C. 1名
和歌山東南R.C. 2名 和歌山北R.C. 1名
和歌山城南R.C. 1名

●出席報告 島 公造 出席委員長
会員数54名(内出席規定適用免除会員9名)

2月19日(本 日)	38名	84.4%
2月 5日(メイキャップ後)	43名	95.6%

次回の例会 3月5日(木)

●卓話「生きている喜び」

日本会議和歌山女性の会副会長 柳岡 克子さん

市内ロータリークラブ情報	クラブ	日 時	内 容
	和歌山城南R.C.	2月26日(木)	リラックス例会
	和歌山南R.C.	2月27日(金)	「海外研修に参加させて頂いて」開智高校インターアクトクラブ
	和歌山中R.C.	2月27日(金)	クラブフォーラム「中ロータリークラブ育英会」
	和歌山北R.C.	3月2日(月)	クラブフォーラム「I.D.M.発表」
	和歌山アゼリアR.C.	3月2日(月)	ひかり基金・まちの保健室への贈呈式
	和歌山R.C.	3月3日(火)	卓話「紀州レンジャーズの目指すもの」紀州レンジャーズ取締役 木村 竹志さん
	和歌山西R.C.	3月4日(水)	卓話「狂牛病の今昔：ルーツを訪ねて」和歌山中R.C. 八瀬 善郎さん
	和歌山東南R.C.	3月4日(水)	クラブフォーラム「社会奉仕」

国際ロータリー第2640地区 和歌山東ロータリークラブ 創立/1959年2月23日
 例会場/ルミエール華月殿 和歌山市屋形町2-10 TEL (073) 424-9392 例会日 木曜日 12時30分
 事務局/〒640-8142 和歌山市三番丁6関西電ビル5F TEL (073)432-4343・FAX (073)432-4845
 会報・広報委員会 嶋 弘伸 古屋 光英 笹島 良雄 武田 慎介 吉田 篤生

「夢をかたちに」~Make Dreams Real~

「ロータリーの魅力再発見」

国際ロータリー第2640地区

和歌山東ロータリークラブ

URL: http://www.werc.jp
E-mail: info@werc.jp

2009年 2月21日(土) 週報 / VOL.50 No.32(通巻2395)



会長報告

八幡 建二 会長



皆さん こんにちは。最近では暗いニュースばかりで、また暗い話になるのですが昨日阪和線で大阪に行ったところ南海高野線で人身事故があり電車が不通になったという連絡がありました。大阪などで神戸から来る人の中にも人身事故で電車が不通になったという話をよく耳にしますが、半分以上は自殺ではないかと思いますが、本当に今自殺者が多いということを痛感いたしました。

本日は東急インさんのお世話で徐々に気分を変えてこちらでの例会になり、多数ご出席いただきましてありがとうございます。例会終了後、明後日に控えた50周年記念式典のリハーサルをする予定になっておりますので各担当の方、ご協力を宜しくお願いたします。やっとこれで50周年を迎えることになりましたが、これもひとえに皆様方のご協力によるものと感謝いたします。ありがとうございました。記念事業、ゴルフ大会、記念誌、各担当の方は非常にご苦労されまして本当にありがとうございました。明後日の記念式典ではお客様を迎えての大事な最後の仕上げになると思います。我々だけなら失敗は許されますが、ガバナーやパストガバナーをはじめ和歌山9クラブの会長幹事など来賓の方が見えられますので、皆で引き締めて対応していただきたいと思っておりますので、どうかご協力の程、お願いたします。ありがとうございました。

幹事報告

前田 成蔵 幹事



- ・スナードイクマエ 前年度決算報告について
- ・和歌山市立少年センターより青少年健全育成活動 10万円寄付に対するお礼を頂きました。
- ★例会欠席時の、事前報告のお願い

先週華月殿の支配人さんとお話させていただきました。食事について、当日当クラブから指定する食事数より、プラス5食を通常お願いしております。これは当クラブが100名以上であったときに、5食という5%以内ということで苦にはならなかったが、現在40名ほどで5食というのはかなり大きなウエイトになり、破棄しなければいけないこともある、という内容の相談でございました。それもご尤もで、できる限り当日の出席数を把握したいと思っております。欠席される方は前もって事務局に連絡をお願いしたいと思います。今年度はプラス5食を今まで通りということになってございますが、皆様方のご協力を宜しくお願いたします。以上です。

委員会報告

国際奉仕委員会

角谷 芳伸 委員長



皆さん、こんにちは。今年6月21日から開かれる国際大会の「ジャパンナイトのお誘い」ということでガバナー事務所よりご連絡をいただいております。6月21日から24日まで国際大会はございますが、6月20日(土)にジャパンナイトが開催されます。登録料は16,000円となっております。お振込など詳細につきましては事務局にお問い合わせください。以上です。ありがとうございます。

★ 50周年記念式典のリハーサル 皆様、ご協力ありがとうございました。★

平成20年10月19日 クラブロータリー情報・規定委員長会議に出席して

代理 藤田 昌宏

(1) CLPについて

CLP導入については、今までは強制はされなかったが、期限付きといっても良いほどであったが、我がクラブでもそろそろ導入を必要になってきている。世界的に見ても独自のCLPも当地区だけのようである。

(2) 決議23-34について

1970年頃より決議23-34の排除しようとする動きが出始めた。それはロータリー創立75周年記念に全世界での活動としての、皆さんもご存知の3Hプログラムです。

この活動は、ロータリーとしては非常に大きく世界的であり、莫大な金額が必要になって来る訳で、ロータリーとして莫大な費用と長期にわたる時間をかけるのが本来の活動であるのかどうかの論争があった。これはロータリーの1922～1923年に、ロータリーの理論派と実践派 (I Serve か We Serve) とのロータリーを分割するような論争が生じたのと同じような状態を呈している。けれど1923年に結局は決議23-34が採択されて、ロータリーは救われたのです。しかし乍ら1970年には決議23-34排除の動きはありましたが、結局はうやむやとは云いませんが、3Hプログラムが実行されて成功しました。

次に、ロータリー創立100周年記念に皆さんもご存知のように、ポリオプラス撲滅運動が提唱されました。その時にもこの決議23-34が問題になって、その内容が邪魔になった訳です。それで益々決議23-34の排除の動きが決定的になり、RIの理事会において廃止ではないが、お蔵入り(恐らくRIの手続き要覧には将来掲載されなくなる恐れがある)されたのです。但し2007年度の手続き要覧には掲載されています。

排除しようとする方々の理由は、決議23-34は、今日ではその主旨が役立っていないという訳です。そうでしょうか?

決議23-34は、他の人からロータリーとは何ですか? と問われた時に、我々が答えるべきこと(簡単に言えば、思いやりを普及する運動をしています、と同時に実践をしています。)即ち、ロータリーの根源であるロータリーの哲学と実践を宣言しているのです。

決議23-34の中のロータリーの哲学である 1)と2)はどうしても存続させねばならない項目であるし 3)以下の実践の項と思われる項目の 5)はクラブの独自性を尊重している事柄でありますから、これはどうしても堅持保存しなければならない項目です。

決議23-34が日の目を見なくなり、我々のロータリーの哲学と我々のクラブの独自性が無くなってしまいます。ロータリーも何処にでもある集団に成る訳です。勿論世界的ではありますが。

何故、決議23-34が大事なのか、全文の一部を記載します。

社会奉仕に関する1923年の声明(1923 Statement on Community service) 次の声明は1923年国際大会で採択され、以降の国際大会で改正されたものである。

ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、及び社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成することである。

この奉仕の理想の適用を実行することについては、多くのクラブが会員による奉仕にその機会を与えるものとして、さまざまな社会奉仕活動を進めてきている。以下に掲げる諸原則はロータリアンおよびロータリークラブの指針として、又、社会奉仕活動に対するロータリーの方針を明確に表すものとして適切であり、また管理に役立つものであることを認め、これを採用するものである。

- 1) ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な要求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。
- 2) 本来ロータリークラブは、事業および専門職務に携わる人の代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の四つのことを実行することを目指している人々の集まりである。まず
第1に、奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体に学ぶこと。
第2に、自分たちのあいだにおいても、また地域社会に対しても、その実際例を団体に示すこと。
第3に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこと。そして
第4に、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外のすべての人々が、理論的にも実践的にも、これを受け入れるように励ますことである。
- 5) 各ロータリークラブは、クラブとして関心があり、またその地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に選ぶことについて絶対的な権利をもっている。しかし、いかなるクラブもロータリーの綱領を無視したり、ロータリークラブ結成の本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を行ってはならない。
そしてRIは、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを命じたり禁じたりすることは絶対にしてはならないものとする。

以上

第1回IDM(20年7月28日～9月6日)開催報告書及び反省会

テーマ 委員会活動について

出席率

班	1	2	3	4	5	6
人数	9	10	9	10	9	9
出席者数	7	4	8	10	7	3
欠席者	2	6	1	0	2	6
メイキャップ	1		1			

ア、ご都合で欠席されメイキャップ出来なかった方は後日、別途に追加としてIDMを開催する。

班長は会長が担当し招集する。

イ、次回の開催時に班長を引き受けてもらうようにする。

(設営者、班長のご苦勞を察してもらう。)

ウ、各班開催時に、会長、幹事、情報委員会が出来る限り出席するようにする。

エ、班、編成表配布の時に、全班の開催日時、場所、会費を明記したものを配布するようにする。

(今年度第1回と同じ方法でメイキャップの目安になる。)

オ、期間を出来るだけ長くし、開催日が重ならない、メイキャップ等しやすいうようにする。

カ、出席率をUPするための気配り、思いやり(お互いに全員が)

キ、報告書、質問を提出しても回答がない。

ク、いつもIDMに出席するメンバーが固定されていて、出席率が非常に悪い、打開策を。

ケ、IDMでみんなが事業に参加できる方法を考えてみたら。

コ、せめて5名以上が集まるような班別を考えて欲しい。

サ、IDMが堅苦しい。同年齢が集まると意見が同じようになる。

シ、報告書用紙を作る。

ス、5年毎の間隔で通算在籍表彰を実施したら。